

2. 日 本 編

1978年

月 日	主 要 事 項	月 日	主 要 事 項
1 月 8 日	園田外相、日ソ平和条約締結交渉及び日ソ外相定期協議出席のため訪ソ（～12日）。		（～29日）。24日及び25日、日加外相会議。
12 日	日米経済協議開催（～13日、東京。日本側代表は、牛場対外経済担当相、米側代表は、ストラウス大統領通商交渉特別代表）。	1 月 24 日	カナダ沿岸 200 海里内での日本漁船の操業に関する日加漁業協定締結交渉（～26日、東京）。
13 日	園田外相、イラン（非公式）（14～15日）、クウェイト（15日）、アラブ首長国連邦（15～17日）、サウディ・アラビア（17～19日）、イラン（非公式）（19日）歴訪に出発。20日帰国。	26 日	日加原子力協力協定修正議定書仮署名（東京）。席上、ジェイミソン＝カナダ外相、日本へのウラニウム供給禁止を同日付で解除すると声明。
16 日	第10回日米安保事務レベル協議（～17日、ホノルル）。	2 月 9 日	日加漁業交渉再開（～2日、ヴァンクーヴァー）。
17 日	日米加漁業条約改定交渉（～22日、東京）。	15 日	200 海里 漁業水域外の北洋公海での日本漁船のサケ・マス漁等に関する日ソ漁業協力協定交渉開始（モスクワ）。（日本側首席代表、松原駐ソ公使、ソ連側首席代表、クドリャフツェフ漁業次官）。
18 日	第14回日韓貿易会議（～19日、東京）。	16 日	今後 8 年間に往復 200 億ドルの貿易達成を目標とする日中長期貿易取決め調印（北京）。日本側、訪中代表団団長の稲山嘉寛日中長期貿易協議委員会委員長、中国側、劉希文日中長期貿易協議委員会主任（対外貿易次官）。
20 日	日比友好通商航海条約の改定第 4 次交渉（～25日、東京）。現行条約を79年1月27日まで延長することを決定。	28 日	衆議院、原子力衛星規制に関する決議を全会一致で採択。
21 日	牛場対外経済担当相、GATT東京ラウンド（多角的貿易交渉）非公式閣僚会合（23日、ジュネーヴ）に出席のためスイス訪問（22～24日）に出発。同会合後、西独（24～26日）、英（26～27日）、ベルギー（含EC本部）（27～29日）、仏（含OECD本部）（29～30日）歴訪、31日帰国。	3 月 3 日	園田外相とマンズフィールド駐日米大使、「日本国とアメリカ合衆国との間の犯罪人引渡しに関する条約」に署名（東京）。
23 日	日ソ科学技術協力委員会第 1 回会議（～27日、東京）。	7 日	モスクワ放送、日本政府の北方領土返還要求を非難する在ソ日本大使館に対するソ連外務省の6日の口頭声明を発表。
24 日	ジェイミソン＝カナダ外相来日		

月 日	主 要 事 項	月 日	主 要 事 項
3月13日	ブルガリアのトドル・ジフコフ国家評議会議長、国賓として来日（～18日、ペタル・ムラデノフ外相ら随行）。園田外相とムラデノフ外相、科学技術協力に関する両国間交換公文に署名。	4月16日	申入れ。 ワルター・シェール西独大統領夫妻来日（～21日。ゲンシャー外相同行（19日まで滞日））。
14日	アンソニー豪副首相兼貿易資源相来日（～22日）。	16日	尖閣諸島周辺の中国漁船団、午後領海外へ移動。同夜領海外9～16キロ沖に集結（約140隻）。17日夜からその一部が領海侵犯を繰り返したが18日午後2時過ぎ全部領海外に退去。
20日	日本政府、ソ連外務省が3月6日に日本の北方領土返還要求運動を非難した口頭声明を松原駐ソ公使に行ったことに関連して、同公使を通じソロビヨフソ連外務省第2極東部長に対し、口頭声明により反論。	19日	フレーザー豪首相来日（～22日）。20日及び21日、福田総理と会談。
22日	日本政府代表牛場対外経済担当相とEC委代表ハーフェルカンブ副委員長（18～24日 来日）、日本・EC間の通商及び経済関係に関連した諸問題に関し協議（～24日、東京）。24日、日本・EC共同コミュニケを発表。	21日	「漁業の分野における協力に関する日本国政府とソヴィエト社会主義共和国連邦政府との間の協定」（いわゆる日ソ漁業協力協定）及び「北西太平洋における1978年のサケ・マスの漁獲の手続き及び条件に関する議定書」署名（日本側、中川農相及び重光駐ソ大使、ソ連側、イシコフ 漁業相）（モスクワ）。
28日	日加漁業協定交渉（～4月2日、オタワ）。4月2日、協定に仮調印。	25日	日・加・米「北太平洋の公海漁業に関する国際条約を改正する議定書」に署名（東京）。
4月5日	ゼアウル・ラーマン＝バングラデシュ大統領夫妻、来日（～9日）。	28日	「漁業に関する日本国政府とカナダ政府との間の協定」署名。
8日	牛場対外経済担当相、スイス経由（9～11日）、西独（11日）、オランダ（11～13日）、デンマーク（13～14日）3国（いずれも、日・EC経済関係などにつき政府首脳と会談のため）歴訪。15日、帰国。	30日	福田首相、日米首脳会談のため、園田外相、牛場対外経済担当相らを伴い訪米（～6日）。
12日	尖閣諸島の領海付近に約100隻の中国国旗を立てた漁船出現、うち約40隻が領海侵犯。	5月8日	韓国外務部孔ア州局長、在韓日本大使館古川公使に対し、領海侵犯を理由に竹島周辺で操業中の日本漁船の退去を要求。
13日	外務省、中国漁船の尖閣諸島領海侵犯事件につき在京中国大使館へ	9日	日本政府、4月30日成立のアフガニスタン新政権を承認。
		15日	ビレンドラ＝ネパール国王、アイシュワリア王妃一行来日（～21

月 日	主 要 事 項	月 日	主 要 事 項
5 月 20 日	日)。 新東京国際空港（成田）開港。	6 月 14 日	在中国日本大使館堂ノ協公使、王 曉雲アジア局副司長と日中平和友 好条約問題についての会談の際、 同副司長、交渉再開についての先 の日本政府の申入れに対し、①交 渉を継続することに同意する、② 時期は7月上旬が好都合である、 ③中国側代表団の構成は韓念龍副 部長その他とする旨回答。
22 日	牛場対外経済担当相、日米経済シ ンポジウム（23日、ロサンゼル ス）に出席のため訪米（～25日）。 24日、ストラウス大統領通商交渉 特別代表と東京ラウンドについて 会談（ロサンゼルス）。	16 日	園田外相、タイ国政府の招きで同 国訪問（～20日）。
28 日	園田外相、国連軍縮特別総会出席 のため訪米（～31日。30日、本会 議において一般討論演説）。	19 日	ポリャンスキー駐日ソ連大使、有 田外務次官を来訪、ソ連政府の訓 令により、日ソ関係の発展の障害 となる日中平和友好条約への懸念 を表明するソ連政府声明を読み上 げ、これに対し有田次官は、同条 約はいかなる第三国に対するもの でもないとの反論。
30 日	園田外相、国際人権規約（経済 的、社会的及び文化的権利に関す る国際規約並びに市民的及び政治 的権利に関する国際規約）に署名 するとともに、わが国の留保及び 解釈宣言に関する書簡を事務総長 に手交（ニューヨーク）。	22 日	園田外相と金永善駐日韓国大使と の間で、日韓大陸棚2協定（「日 本国と大韓民国との間の両国に隣 接する大陸棚の北部の境界画定に 関する協定」及び「日本国と大韓 民国との間の両国に隣接する大陸 棚の南部の共同開発に関する協 定」）につき、それぞれ批准書交 換（東京）。同2協定、批准書交 換に伴い22日付で発効。
31 日	佐藤駐中国大使、日中平和友好条 約交渉再開を韓念龍中国外交部副 部長に申入れ。	26 日	第5回日豪閣僚委員会（～27日、 キャンベラ）。
6 月 2 日	日本政府、ソ連政府に対してわが 国固有の領土である択捉島に接続 する領海の一部に射撃訓練の危険 水域を設定したことは不法であり、 直ちに訓練を中止し危険水域 設定を解除するよう要求すると在 モスクワ大使館を通じ抗議。	26 日	日本・ギルバート諸島漁業協定署 名（東京）。
11 日	イエン・サリ＝カンボディア副首 相、国連軍縮特別総会の帰途来日 （～13日）。	30 日	日本政府、佐藤駐中国大使の駐カ ンボディア大使兼任を発令。
12 日	皇太子、同妃両殿下、パラグアイ 及びブラジル両国大統領の招きに より政府賓客としてパラグアイ （13～16日）、ブラジル（16～25日） 親善訪問に御出発。18日、ブラジ ル日本移民70周年記念式典に御出 席（サンパウロ）。27日、御帰国。	7 月 7 日	ソロモン諸島独立、ホニアラで独 立式典挙行。わが国から山中貞則 衆議院議員、特派大使として出

月 日	主 要 事 項	月 日	主 要 事 項
7 月 8 日	席。 牛場対外経済担当相，多角的貿易交渉（東京ラウンド）閣僚級会談（～13日，ジュネーブ。「東京ラウンド交渉の現状に関する数カ国代表団声明」を発表）に出席。	8 月 14 日	外相と黄華外交部長が華国鋒主席ら立会いのもとに同条約に署名。 ヴァジパイ＝インド外相，外務省賓客として来日（～17日）。15，16の両日，第1回日印外相定期協議に出席。
13 日	福田総理，園田外相，村山蔵相ら，第4回主要国首脳会議（16～17日，ボン）出席のため出発，パリ着。牛場対外経済担当相は，14日パリ着。福田総理，15日にパール仏首相と会談。	22 日	日加原子力協定改正議定書署名（東京）。
15 日	福田総理一行，パリよりボン着。園田外相，ゲンシャール西独外相と会談。	23 日	ジノビエフ駐日ソ連臨時代理大使，外務省に有田外務次官を来訪，日中平和友好条約に対するソ連政府の立場について口頭申入れ。
18 日	福田総理一行，ボンよりベルギー（ブリュッセル）訪問（～19日。20日帰国）。18日，総理，EC委員会でジェンキンス委員長と会談。 牛場対外経済担当相は，18日ボン発，19日帰国。	9 月 1 日	日本，ニュー・ジールランド両政府漁業協定に署名（ウェリントン）。
20 日	日本・ニュー・ジールランド漁業交渉開始（～8月18日，ウェリントン）。8月18日，漁業協定仮調印。	3 日	第10回日韓定期閣僚会議（～4日，ソウル）。
21 日	日中平和友好条約交渉再開（北京）。	4 日	中川農相（～9日），牛場対外経済担当相（～10日），日米農産物交渉（5～7日，ワシントン）出席のため訪米。
8 月 8 日	日中平和友好条約交渉のため園田外相訪中（～13日）。	5 日	福田総理，イラン，カタール，アラブ首長国連邦及びサウディ・アラビア各政府の招待により，夫人同伴4カ国歴訪（5～12日，園田外相ら同行）。14日帰国（5日，バンコク立寄り，空港でクリアンサック首相らと会談。イラン（5～9日），カタール（9～10日），アラブ首長国連邦（10～11日），サウディ・アラビア（11～12日））。
9 日	園田外相，黄華外交部長と会談（第1回，第2回）。	12 日	在ソ連日本大使館，ソ連が「水路通報」で15～17日の3日間，択捉島北西水域で射撃訓練を実施するため危険水域を設定したことについて，同水域には日本固有の領土である択捉島の領海12海里の水域
10 日	園田外相，鄧小平副首相と人民大会堂で会談。		
12 日	園田外相，黄華外交部長と会談（第3回）。華国鋒主席と会見（人民大会堂）。午後7時（北京時間）から，日中平和友好条約の署名・調印式が人民大会堂で行われ，園田		

月 日	主 要 事 項	月 日	主 要 事 項
	が含まれているとして、ソ連外務省に抗議するとともに、訓練の中止を申入れ。		帰途モスクワ立寄り、15日、帰国。
9月20日	日本・ソロモン諸島漁業協定署名（ホニアラ）。	11月10日	第33回国連総会における安保理非常任理事国選挙において、アジア地域よりバングラデシュ当選。日本は第2回投票後、立候補を辞退。
21日	園田外相、第33回国連総会出席のため訪米（～26日）。		
22日	園田外相、「ミネソタ大学国際平和貢献賞」受賞、受賞記念講演（ミネソタ大学）。	15日	ヤロシェヴィッチ＝ポーランド人民共和国首相夫妻、公賓として来日（～19日）。
25日	園田外相、グロムイコ＝ソ連外相会談（ニューヨーク）。園田外相、国連総会演説。園田外相、バンス国務長官会談（ニューヨーク）。	27日	第17回日米安保協議委員会開催（東京。日本側、園田外相、金丸防衛庁長官、米国側、マンズフィールド駐日大使、ウィズナー太平洋軍司令官出席）。「日米防衛協力のための指針」を了承（28日、国防会議及び閣議で同指針を了承、同日発表）。
10月1日	英領トウヴァル、トウヴァルとして独立。わが国同国を承認。	27日	フォルラーニ伊外相、第4回日伊外相定期協議（28～29日）に出席のため来日（～12月1日）。
10日	シュミット西独首相、来日（～13日）。	12月4日	日米農産物閣僚レベル交渉（～5日、東京。5日、妥結し、双方合意文書を交換）。
22日	鄧小平中国副総理夫妻、公賓として来日（～29日）。	6日	福田内閣総辞職。
23日	福田総理、鄧小平副総理立会いの下に、園田外相、黄華外交部長間で日中平和友好条約批准書交換。	7日	衆、参両院、大平正芳氏を首相に指名。大平内閣発足。園田外相再任。
30日	ロペス・ポルティエリョ＝メキシコ大統領夫妻、国賓として来日（～11月4日）。	14日	グエン・ズイ・チン＝ヴィエトナム副首相兼外相一行来日（～20日）。
11月3日	英自治領ドミニカ、ドミニカ国として独立。わが国同国承認。	15日	日ソ漁業交渉、日ソ両国の相手国200海里内での79年の漁獲割当量を日本75万トン、ソ連65万トンとすることで合意。園田外相とポリャンスキー駐日ソ連大使との間で、「日ソ」及び「ソ日」両漁業暫定協定を79年末まで延長する議
5日	ドギランゴー仏外相、第15回日仏外相定期協議（6～7日）出席のため来日（～8日）。		
5日	アイルランドのオケネディ外相夫妻、外務省賓客として来日（～10日）。		
10日	園田外相、英国（～11日。11日、第12回日英外相定期協議）、ハンガリー（11～13日）、チェコスロヴァキア（13～14日）歴訪。		

月 日	主 要 事 項	月 日	主 要 事 項
12月18日	定書に調印（東京）。 多角的貿易交渉（東京ラウンド） 日米交渉，交渉の主要分野につき		包括的了解に達し，共同新聞発表 （ジュネーヴ）。